

機 関 名	畜産試験場	課題コード	H250502	事業年度	H25 年度 ~ H29 年度				
課 題 名	比内地鶏の出荷率向上のための研究 — 圧死の原因解明と予防対策 —								
機関長名	酒出 淳一	担当(班)名	比内地鶏研究部						
連絡先	0187-72-3813	担当者名	青谷 大希						
政策コード	2	政策名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略						
施策コード	1	施策名	“オール秋田”で取り組むブランド農業の拡大						
指標コード	6	施策の方向性	生産・消費現場と密着した試験研究の推進						
種 別	重点(事項名) 家畜の生産性向上				基盤				
	研究	○	開発		試験		調査		その他
	県単	○	国補		共同		受託		その他
評 価 対 象 課 題 の 内 容									
<p>1. 研究の概要</p> <p>比内地鶏の育成期間における損耗のうち、多くを占めているのが圧死によるものである。圧死はニワトリが外的な刺激に対して過剰に反応することにより発生するため、比内地鶏のストレス反応性について行動学的調査並びに遺伝学的調査を行い、圧死を予防するための飼養技術を開発するとともに遺伝子情報を利用した育種選抜のためのマーカーを検索する。</p> <p>この研究により、比内地鶏の出荷率を向上させることで、比内地鶏生産者においてはロットあたりの収益性の増加、比内地鶏産業全体においては出荷羽数の増加により処理・加工・流通産業の振興に貢献できる。</p>									
<p>2. 課題設定の背景(問題の所在、市場・ニーズの状況等)</p> <p>平成23年度の比内地鶏出荷羽数は51万羽であったが、出荷率(出荷羽数/導入羽数)は90%程度であり、育成期間中の損失は5万羽以上にのぼる。</p> <p>1羽2000円として県全体で1億円の生産額が損なわれているだけでなく、ひな代や死亡時までには要した育成費が無駄になる点から経済的損失は非常に大きく、生産者から圧死のしやすさについて改善を強く要望されている。</p> <p>市場の状況としては、比内地鶏の餌付け羽数は平成23年以降堅調に増加を続けており、平成28年は一時的に生産調整が実施されるものの、今後も増産が見込まれる。</p> <p>また、県内各地の生産者団体では定期的に勉強会が行われており新規の生産技術についての導入意欲も十分にありと考えられる。</p>									
<p>3. 最終到達目標</p> <p>①研究の最終到達目標</p> <p>圧死を予防するための飼養技術マニュアルの作成          遺伝子情報を利用した育種改良のためのマーカーの検索          ストレス反応性を緩和する機能性物質の検索</p> <p>②研究成果の受益対象(対象者数を含む)及び受益者への貢献度</p> <p>県内比内地鶏生産者112戸に対し、ロットあたりの収益性を向上させることで大きく貢献することができる。          また、出荷羽数が増加することにより処理・加工・流通産業の振興にも貢献できる。</p>									
4. 全体計画及び財源 (全体計画において) <span style="float:right">==== 計画 ———— 実績)</span>									
実施内容	到達目標	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		(最終年度) 29年度	
ニワトリ品種間のストレス反応性の評価	ニワトリ品種間及び品種内個体間のストレス反応性の評価								合計
気質関連遺伝子の多型性解析とマーカーの検索	気質関連遺伝子の多型性とストレス反応性との関連性の解明								
行動解析による比内地鶏の脅威の特定	比内地鶏が脅威を感じる鍵刺激の種類と強度の解明								
行動的ストレス反応性と圧死リスクの関連性調査	ストレス反応性と圧死リスクの関連性解明								
圧死予防技術の開発	圧死予防技術の開発								
飼養技術マニュアルの作成	記載内容のタイムリーな改訂								
計画予算額(千円)		1,768	1,367	1,324	1,168	1,168		6,795	
当初予算額(千円)		1,564	1,359	1,469	1,460			5,852	
財源内訳	一般財源	1,253	1,160	1,038	984			4,435	
	国費								
	その他	311	199	431	476			1,417	

(標準様式～裏)

観点							
1.	● A ○ B ○ C ○ D						
ニーズの状況変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の10%が圧死で損失しているならば、そのニーズは大きいと考える。また、クマにによるひなの圧死という事件が最近あった。</li> <li>・比内地鶏の圧死については、経済的損失が大きいことから、解決を望む声は大きい。</li> <li>・一部の産地では、28年度から生産調整や買取価格の引き下げを実施しており、事故率の低減はこれまで以上に重要な課題になっている。</li> </ul>						
	A. ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている			C. ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている			
	B. ニーズに大きな変動はない			D. ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている			
2.	● A ○ B ○ C ○ D						
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の10%が圧死で損失しているならば、その解決は非常に大きな経済効果を生むものとする。</li> <li>・本課題の解決により、農業所得の向上が期待される。</li> <li>・増羽による収益の増大に期待ができない今、事故率の低減が有効な収益性向上の手段であるとする。</li> </ul>						
	A. 大きな効果が期待される			C. 小さな効果が期待される			
	B. 効果が期待される			D. 効果はほとんど見込めない			
3.	○ A ● B ○ C ○ D						
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子マーカーに繋がる情報が得られた。</li> <li>・概ね計画どおりに進捗しているものと判断する。</li> <li>・圧死予防に有効な飼養管理方法の解明・確立に期待している。</li> </ul>						
	A. 計画以上に進んでいる			C. 計画より遅れている			
	B. 計画通りに進んでいる			D. 計画より大幅に遅れている			
4.	○ A ● B ○ C ○ D						
目標達成阻害要因の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレス緩和に関する情報は全く得られていない。</li> </ul>						
	A. 目標達成を阻害する要因がほとんどない			C. 目標達成を阻害する要因がある			
	B. 目標達成を阻害する要因が少しある			D. 目標達成を阻害する要因が大いにある			
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ A 当初計画より大きな成果が期待できる</li> <li>● B+ 当初計画より成果が期待できる</li> <li>○ B 当初計画どおりの成果が期待できる</li> <li>○ C さらなる努力が必要である</li> <li>○ D 継続する意義は低い</li> </ul>						
<p>評価を踏まえた研究計画等への対応</p> <p>○ 目標達成の阻害要因について 今年度、ストレス反応性と出荷成績との関連を明らかにするための飼養試験ならびにストレス反応性の遺伝率を推定するための試験を実施しており、育種によるストレス反応性緩和に資する情報は今年度中に得られるものと考えている。</p> <p>○ 引き続き、現地調査、アンケート調査ならびに行動学的調査、遺伝子解析を進め、飼養管理技術の向上、新規技術の開発を目指す。</p>							
(参考)	事前	中間(26年度)	中間(27年度)	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)	
過去の評価結果	B	B	B				